

が組み込まれている。実際、欧米では“Open University”として数多くの大学がオンラインプログラムを提供しており、伝統的な対面式授業から脱却した e-Learning の学習効果が報告されている。

しかしながら、従来の対面式授業からの脱却には利点と欠点が表裏一体となって付いてまわる。学習者のスケジュールや学習度に応じて学習できる反面、学習者に自立・自律心がなければ学習の持続が困難となる。教員は必ずしも必要とされないで人件費などのコストは低く抑えられるが、学習者と教員間や学習者同士のインタラクションが取りづらい。成績管理が自動的に行われるので教員の仕事量は軽減されるが、学習者の学習プロセスを把握できなくなるなどである。今後、これらの問題を踏まえて、専門学術領域や専門職業領域で要求される語学力の習得に e-Learning の導入を図った新たな英語教育方法を確立することが本プロジェクトの目標である。

第1回研究会報告

2009年11月18日 於 本学

報告者 智原 哲郎

【英語教育の方法論を模索する：e-Learning とジャンル分析】

発表者 東條 加寿子教授

【e-Learning】

e-Learning とは、情報技術によるコミュニケーション・ネットワークなどを活用した主体的な学習であり、対面授業を補うものと対面授業に取って代わるものがある。英語教育における e-Learning 導入の目的には、学習効率の改善、学習の利便性の向上、新規性・新効果、学生の満足度のアップなどが挙げられ、導入により、1) 個々の学生が、基本的英語力の伸長に取り組める、2) リメディアルが必要な学生に対応できる、3) Contents-based の英語教育を効率的に推進できるようになる。このようにマルチメディアを活用し英語4技能とコンテンツを融合することにより、きめ細かな教育と e-Learning とのブレンド型教育が期待できるであろう。

【ジャンル分析】

ジャンル分析とは、ジャンルに特有な言語的パターンを分析することである。ジャンル分析は学習者中心のアプローチであり、自律した学習者を育成し、学習効果を格段に高める。ジャンルについて読むことや特有な語彙を学ぶことをその目標にするのではなく、例えば、「特許はどのように書かれているか」「学術論文はどのように書かれているか」「ビジネスの企画書はどのように書かれているか」など、学習者がジャンル内の情報を的確・迅速に理解し、発信できる能力を培うことである。本学の英語教育にジャンル分析の手法を取り入れれば、従来とは別の角度で効果的なコミュニケーション能力を育成することができるであろう。

Project 3

外国人児童生徒のための言語教育モデルの研究

日本政府が1990年に行った「出入国管理及び難民認定法の一部を改訂する法律」の施行により、外国人労働者の子どもたちが多数、日本で教育を受けることになった。この10数年、外国人児童生徒の抱える問題について多くの研究がなされてきた。例えば、不就学、学習の権利、日本語教育といった分野である。しかし、母語による教育、母語と日本語を使用したバイリンガル教育は、外国人学校での実施にとどまり、ほとんどの公立学校では実施されていない。本プロジェクトでは、外国人児童生徒の母語を保持・発展させ、日本語の習得及び教科学習の理解を促す言語教育モデルを研究する。

加藤 映子

プロジェクト3では、年々増加傾向にある外国人・帰国児童生徒の教育の問題について取り組みます。まず、プロジェクトのキックオフとして、朝鮮半島にルーツを持つ児童生徒に、大阪市立北鶴橋小学校で35年間にわたり民族学級担当講師として子どもたちを指導してこられた金容海先生にご講演を頂きます。当時、在日の教育に奔走していた人々は、政府の政策に翻弄され、差別や偏見と戦いながら、在日の子どもたちのための教育に多大な努力をほらい、民族学級を公立学校に設置されました。この一連の歴史を最もよくご存知の金容海先生のお話を聞く事は、増加傾向にある外国人労働者や児童生徒と共生していく社会を形成していく上で大切なことだと思います。金容海先生は、北鶴橋小学校での教育の目標を「差別をしない、させないための人間教育」とされました。これは、日本人児童生徒が差別をしないということのみならず、在日の子どもたちが誇り高い人格を持って生きていくことをめざしています。どのような取り組み、工夫、苦労があったのかをお話し頂き、共生する社会について共に考えたいと思います。

国際共生研究所第2回講演会予定

【本名は民族の誇り - 在日の子どもたちの民族学級から学ぶ外国人児童生徒の教育】

講師 金容海先生

日時：2010年1月29日（金）18:00-19:30

場所：本学 1F 会議室

対象：一般、大阪女学院学生・教職員

参加費無料 事前申し込み要 riicc@wilmina.ac.jp